

## 分断なき社会実現を 党青年委員会提言

コロナ禍にあっても、公明党青年委員会はオンライン等を活用して、活発な政策対話を開催してきました。

2020年8月11日、官邸の安倍晋三総理(当時)を訪ね、若者の声を基にとりまとめた『青年政策2020』を提言。総理からは「幅広い分野で提言をまとめていただいた。しっかり受け止め、取り組みを進めていきたい」との回答がありました。

### 提言のポイント

- 民間賃貸住宅における家賃補助制度の創設
- 保育士を含め社会生活を支える人の賃金上昇
- テレワークを軸とした多様な働き方の推進
- 育休制度利用当初の1カ月間は給付率を賃金の100%に
- 若手研究者への生活費支援や研究費の重点化



## 核廃絶へ日本は「橋渡し役」に総力



2021年は核廃絶に向けて重要な年となります。1月22日には核兵器禁止条約が発効。2月には米口の新戦略兵器削減条約(新START)が期限を迎えるほか、夏頃を目途に新型コロナウイルスの影響で延期された核拡散防止条約(NPT)再検討会議も予定されています。

昨年10月21日、核廃絶推進委員会として茂木敏充外相に対し、核軍縮の進展に向け、日本が核兵器保有国と非保有国の「真の橋渡し」の役割を担い、国際社会の取り組みをリードしていくことを求める緊急要望を行いました。席上、山口那津男公明党代表は、核兵器禁止条約の発効に必要な50カ国の批准が視野に入ったことから、発効後に開始される締約国会合で日本がオブザーバーとして参加するよう求めました。

茂木大臣は「緊急要望の内容をしっかり受け止めたい。引き続き、軍縮に向けて強いリーダーシップを発揮している公明党と連携しながら取り組みを進めたい」と応じました。

## デジタル化で生活を豊かに デジタル庁創設

2020年11月13日、官邸で菅義偉首相と会い、社会のデジタル化の司令塔となる「デジタル庁」創設に向けた提言を申し入れました。会談では「豊かな国民生活と誰一人取り残さない社会を実現させる、というのがデジタル庁の位置付け」と強調。全ての人に優しいユニバーサルデザインを基本に、どこまでも利用のしやすさ、アクセシビリティを重視するよう求めました。

窓口に行かなくとも、行政手続きがスマートフォンで完結するといった「国民の当たり前」の実現に向けて、さらに検討を進めてまいります。



### PROFILE

1974年長野県生まれ。東京都出身。東京大学法学部卒。IESEビジネススクール経営学修士(MBA)。米シティバンクを経て、戦略系コンサルティング会社で企業再生や海外市場戦略の策定などに従事。2018年10月まで経済産業大臣政務官、内閣府大臣政務官、復興大臣政務官を務める。公明党広報委員長。参議院議員2期。

ホームページ  
<https://hiraki.komeinet.com/>

ツイッター  
[https://twitter.com/Hiraki\\_Daisaku](https://twitter.com/Hiraki_Daisaku)

フェイスブック  
<https://www.facebook.com/Hiraki.Daisaku>

### メルマガ会員募集中!

右のQRコードから、またはアドレスへ空メールを送り、登録をお願いします。

[daisaku\\_hiraki@m.bmb.jp](mailto:daisaku_hiraki@m.bmb.jp)



参議院議員

# 平木だいさく NEWS

2021年  
新春号

HIRAKI DAISAKU NEWS

発行日: 2021年1月 発行元: 公明党参議院比例区第3総支部 千葉県船橋市湊町1-7-4 B号室



## 新しい日常をつくる

新型コロナウイルスに振り回された一年間。

でも、あえてポジティブな側面に目を向ければ、このコロナ禍は、私たちの価値観を揺さぶり、ライフスタイルを一から見直す良い契機を与えてくれたとも捉えることができます。

総務省によれば、東京都は昨年7月以降、転出が転入を上回る『転出超過』が続いています。

朝からへとへとになって満員電車で揺られる生活を改め、地方の広々とした家で、家族とともに夕食の食卓を囲む。

この地方移住のトレンドは、コロナ禍が沈静化した後もおそらく変わることはないでしょう。

大きな転換期を迎えた日本において、政治の果たすべき使命はこれまで以上に大きいはずです。

医療提供体制を守り、ワクチン・治療薬を通じて感染の不安を取り除くのは、言わば『守り』の一手。

これに加えて今必要なのは、このコロナ禍のピンチをチャンスに転じる『攻め』の一手ではないでしょうか。

仕事や家族、地域社会との関わりを今一度見つめ直し、自分らしく輝けるライフスタイルが発見出来たならば、それこそが『新しい日常』と呼ぶに相応しい。

一步踏み出す時、皆様のお力になれる政治家でありたいと思います。

参議院議員 平木大作

